一般社団法人滋賀県里親連合会 広報誌

# 里親だより

令和５年３月 30 日発行

令和 5 年
No. 93

（一社）滋賀県里親連合会事務局
〒520-0047
滋賀県大津市浜大津 4-1-1
明日都浜大津市民活動センター内
Email：shiga-satooya@sirius.ocn.ne.jp

## 滋賀県里親連合会の一般社団法人化にあたって～会員の皆さんへ～

一般社団法人滋賀県里親連合会
理事長　佐藤哲也

私共滋賀県里親連合会は昨年11月に一般社団法人化いたしました。法人化に際して（公財）全国里親会をはじめ多くの会員、役員の皆さんのお力をお借りしました。

ここに御礼申し上げます。さて、この目的ですが、定款第３条にありますように「児童福祉法の精神に基づき里親制度の向上発展を図り、児童福祉の増進に寄与すること」です。この目的の達成のため、第 4 条に次の事業を行うことが記されています。

① 里親制度に関する調査・研究
② 里親制度の普及・啓発
③ 里親相互の連絡調整とスキルアップ研修
④ 当事者団体としての里親・里子支援
⑤ 居場所づくりなど、子どもの権利擁護事業
⑥ 関係機関とのパートナーシップ事業
⑦ 前各号に付随する、その他の事業

ここで少し視点を変え、会員の皆さんにとって里親会に入る意味を今一度考えてみることにします。

### １．経験を共有する。

養育は順調な時ばかりとは限りません。このような時ベテランの里親さんや里親仲間の経験や意見はとても貴重なものです。また、孤立せず、悩みを共有してもらうだけでもこころの荷を下ろすことができます。委託経験のない方・少ない方、里親会で経験を共有して養育力を向上させましょう。

### ２．子どもたちと触れ合う。

里親・里子交流会やサロンでは未委託の里親さんも参加し、子どもたちと交流しています。子どもたちと触れ合うことで、養育や成長の楽しさ・やりがいを体験することができます。里親会で子どもたちと交流を重ねてください。

### ３．モノが言える。

里親一人がモノを言ってもなかなか届きません。里親のグループになってみんなの総意として意見を出したら行政や学校いろいろなところに届きます。例を上げると、現在、次のような児童福祉に係る公的な場で、要望・意見表明を行っています。

① 滋賀県青少年局主催の「里親等委託推進担当者会議」
② 滋賀県社会福祉協議会を通じた滋賀県福祉関係予算の申請
③ 滋賀県児童虐待防止計画立案
④ 滋賀県社会的養護検討部会
⑤ 滋賀県地域擁護推進協議会

さらに（公財）全国里親会を通じて、厚生労働省・大臣にまで届けることができます。里親会に入っていろいろな提案や意見を出してください。

結びとして厚労省の「里親委託ガイドライン」に規定されている里親会の役割を抜粋しますと以下の様なものです。

① 里親会は、里親の相互交流や経験豊富な里親の相談による養育技術の向上、里親の孤立化の防止のために重要な役割を持つ。このため、会員相互の交流のみが目的の私的な団体ではなく、公益的な団体である。
② 里親は里親会の活動に必ず参加するものとする。
③ 里親会の役員は、子どもの最善の利益のために、多様な考え方や事情を持つ里親相互のまとまりを良く保ち、里親の相互交流を通じた養育力の向上を図る。縷々述べてきましたが、子どもの最善の利益のためにともに活動していきましょう。また、お近くに会員でない里親さんがおられたら、ぜひ入会を勧めてください。

もくじ

■一般社団法人化にあたって …… P.1
■関係団体からのお祝辞 …… P.2
■里親里子交流会 …… P.4
■里親知ってやフォーラム …… P.5
■ピアカウンセリング事業 …… P.6
■全国里親会に参加して…… P.8
■子供の未来応援基金事業計画…… P.8
■今年度の事業報告 …… P.9
■里親会員からの投稿…… P.9
■武村さんへの追悼メッセージ…… P.11
■事務局だより…… P.12
■編集後記 …… P.12

## ～ 法人化に対する関係団体からのお祝辞 ～

**これからの歩みに**

公益財団法人全国里親会会長　河内美舟

桜の蕾もふくらみ、陽春を迎える頃となりました。一般社団法人滋賀県里親連合会会長佐藤哲也様をはじめ当里親会皆様には、コロナウイルス感染状況の中にあってこどもたちの就進学や職場環境の変わりなどにお心遣い一入のことと拝察いたします。平素は、全国里親会事業に対しましてご協力ご支援を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

当里親連合会様におかれましては、14ヵ所の地域里親会からなる滋賀県里親連合会から昨年11月21日、めでたく一般社団法人格を取得されました。これからの里親会活動の歩みとされる礎を示されましたこと誠におめでとうございます。公益財団法人全国里親会として、都道府県市の里親会が家庭的養育を要する子どもたちの安心安全な暮らしを呈する手立てとしての法人格取得に対し里親会支援の助成している処、代表理事佐藤会長より、当該事業の報告と助成金申請を頂きました。こうした成果がさらに里親会に所属される各里親さん方の励みにもなって里親会の活性化一縷とより良い運営に繋がるのではないでしょうか。

里親制度に示されてある、私達里親の旨とする大切な里親信条において、基本理念からなる文言に「私たち里親は、保護者による養育が困難な子どもを家庭に迎え入れ、子どもに寄り添った養育を行います」とあります。この冒頭に「子どもの権利擁護」「社会的養護」「子どもの発達保障」「里親としての資質・専門性の向上」があるように私達里親は、複雑多岐にわたる社会情勢と共に変わりゆく児童福祉制度を、これからの歩みの中にも更なる里親としての資質向上のために研鑽していくことが肝要ではないでしょうか。

令和６年は、昭和29年に創設された全国里親会の創設70周年を迎えます。来年の児童福祉月間・５月16日に当該記念式典を開催予定です。こうした大きな節目の機縁をみなさまと共にし《子どもを真ん中に》の里親会活動を展開してまいりたく存じますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

**一般社団法人滋賀県里親連合会設立記念メッセージ**

滋賀県子ども青少年局局長　大岡紳浩

滋賀県里親連合会の一般社団法人化につきまして、心よりお祝い申し上げます。また、日頃から本県の児童福祉とりわけ里親制度の推進のために御尽力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

一般社団法人滋賀県里親連合会様は、任意団体として設立されて以来、里親への情報提供や研修、広報啓発活動や里親・里子同士の交流会の開催など、里親会ならではの活動を実施いただき、県内の里親養育の推進に大きな役割を果たしてこられました。これまでの里親会としての活動に対しまして、関係者の皆様のたゆまぬ努力に心から敬意を表しますとともに、一般社団法人化されたことにより、里親会としての主体的な活動と相まって、長年多方面にわたり取り組まれてこられた御経験が、今後の運営に結実して、更なる児童福祉の増進に貢献いただくものと期待しております。

本県におきましても、淡海子ども・若者プランの基本理念である「子ども・若者が夢を持って健やかに育つ」こと、「地域ぐるみで子育てを応援し、地域が元気になる」という考え方に基づき、様々な取組を進めております。さらに、来年度は、「シン・ジダイ」の希望である「子ども・子ども・子ども」、「子どものために、子どもとともにつくる滋賀県政の実現」を掲げ、誰ひとり取り残すことなく、全ての子どもが安心安全な環境のもとで成長していけるよう、全力を挙げて各種の子ども施策

に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、一般社団法人滋賀県里親連合会様のますますの御発展と、皆様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

**一般社団法人滋賀県里親会設立お祝いメッセージ**

社会福祉法人小鳩会（フォスタリング機関こばと）
理事長　山本朝美

一般社団法人滋賀県里親連合会設立お慶び申し上げます。これまで、貴連合会が子どもの幸せを願い、果たしてこられた御功績に改めて敬意を表します。

小鳩会は、小鳩乳児院から里親家庭での養育に措置変更される子どもたちが多く、昭和の時代から里親さんとは、子どもを真ん中に多くの交流を持たせていただいてきました。志は一つ、子どもたちに幸せな人生を送ってほしいという願いであったと思います。お一人おひとりの里親さんと子ども達に寄り添わせていただきながら小鳩会は多くの学びをさせていただきました。このことが、小鳩会が里親支援を制度化される以前から取り組み、現在のフォスタリング機関こばとに至っている大きな土台となっております。里親の皆様、そして子ども達に感謝申し上げます。

滋賀には田村一二先生の「茗荷村見聞記」に記された素晴らしい理想があります。里親制度の主人公は子ども達です。子どもを真ん中に、より多くの皆様がつながり支え合えるそんな社会をめざし、一般社団法人滋賀県連合会が大きく役割を果たしていかれることと期待いたしております。

**法人化、おめでとうございます**

近畿地区里親連絡協議会会長　梅原啓次

日頃は近畿地区里親連絡協議会の活動の上にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、この度、滋賀県里親連合会が「社会的信用度の向上を目指し、子どもたちの最善の利益のため行政当局と事業を連携しやすく、そして近年子どもの委託率低下を打開するため、さらに里親会運営における支援金の確保のため」に有意なるご決断をなされ一般社団法人化されたことに敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

「子どもの健やかな成長には、家庭生活を経験することがとても大切である」と言われています。そこで、要養育児童がより多く家庭環境で育てられるよう、里親を増やす活動が全国で展開され、里親制度の理解と実際に里親になって頂けるよう積極的に進めていかなければならないと考えます。そして、今後家庭養護を促進するには、行政、里親、施設、フォスタリング機関などが連携・協働しチーム養育が必要であると思います。

さらに、里親が孤立しないよう里親サロン、親睦行事などを通して顔の見える関係を作り、交流を通して情報の共有、里親同士でないと分かり合えない相談ができるよう活動を進めていかなければならないと思います。我々里親は、いろいろな事情から愛情を受けることが困難であった子どもたちに、「安全・安心・温かい家庭」を提供し、愛情を注ぐことによって心を癒し、日常生活を送る中で子どもたちが社会性を身につけるよう根気よく世話をし、「生まれてきてよかった」と生きる力を得て、未来に希望と自信を持って自立し、素晴らしい人生を歩んでいってくれるようその役割を果たしたいと思います。

今後、一般社団法人滋賀県里親連合会が、社会的養護の担い手としてご活躍され、ますます発展されますことをお祈りいたしまして祝辞とさせていただきます。

**法人化ー未来につなぐ大切な一歩**

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会
専務理事兼事務局長　谷口郁美

一般社団法人として新たな一歩を踏み出された滋賀県里親連合会のみなさま、法人化、誠におめでとうございます。ここまでの道のりにはいくつもの困難があったことと拝察いたします。そのなかで、困難に真摯に向き合い、乗り越えてこられたみなさまの姿は、かつて糸賀一雄さんがおっしゃった“同志”そのものではないかという思いです。

子どもを真ん中において、子どものしあわせを願い、温かな家庭で子どもの自立を育んでいこうと不断の実践をなさっている貴会と私ども滋賀県社会福祉協議会のご縁のはじまりは、平成26年の滋賀の縁創造実践センター開設でした。当時の元藤会長をはじめ会員の方々、そして社会的養護施設の方々とともに、縁センターで実現しようとし

たことは 2つでした。1つは、さまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもたちが学校を終え、社会人になって自分なりの幸せな暮らしをつくっていけるまで、何度でも何度でも、困ったときには相談ができ、さびしいときにはごはんを食べに戻れる居場所と人をつくろうということ。もう 1つは、子どもたちが信頼できる人と出会い、働き生きるという自立への土台づくり。

170を超える協力企業・事業所とのうれしいコラボ「ハローわくわく仕事体験」も、同じく 170を超える「遊べる・学べる淡海子ども食堂」も、子どもの笑顔を一番に思い、子どもの可能性を育む縁の架け橋を太く、たくさんにしていきたいという思いがかたちになってできたものです。

今、私たちは、貴会をはじめ、困難を抱える子ども・若者を支える団体の方々とともに、“地域養護”という新たな実践をはじめました。大切な子どもたちを守り育む福祉滋賀の同志として、これからもよろしくお願いいたします。

**法人化、おめでとうございます**

一般社団法人こどもみらい横浜会長　新井淳子

一般社団法人滋賀県里親連合会のみなさま、この度は法人化おめでとうございます。法人設立までの道のりは大変だったと思います。今から10年前に同じ道を歩み始めた者として、とてもうれしく思っています。

私たち（一社）こどもみらい横浜は、ちょうど今年12月に法人化10周年を迎えます。信頼できる仲間と一歩ずつ歩んだ 10年でありました。最初は分からないことばかりで戸惑いながらも、お金のこと、担い手のこと、活動内容など独自のスタイルを確立していきました。今から振り返れば大変でしたが、そのプロセスはとても楽しい時期であり、仲間との絆も深まった時期でもありました。

これまでの任意団体のボランティア活動とは違い、法人となれば人事・労務・経理、そして組織的な動きが求められます。法人として責任も伴います。しかし、「自分たちで1から作り上げる！」、それは自由でウキウキするものです。今のみなさんはそのスタート地点にいます。

10年後にどうなりたいですか？どんな組織で、どんな活動をしていたいですか？次世代の里親さんたちにどんなバトンを渡すのかをイメージしてみてください。仲間といっぱい語り合って、将来の夢を描いてみてください。みなさんの想いがカタチになるときがきっと来ます。出来ることからひとつずつ始め、実績を積むこと、理念を見失わないように法人化した気持ちを忘れないでください。応援しています。

ともに子どもたちのために、頑張りましょう！

## ◆ 日帰りで里親里子交流会を開催。来年度こそ１泊２日で開催しよう ◆

**里親里子交流会を開催しました（報告）**

蒲生地域里親会会長　　山添　潔

新型コロナの終息のめどが立たず、里親会の活動も長らく制約を受けていましたが、令和４年度が始まった頃、会長会で、全国旅行支援や制限の緩和が言われているので、今年は例年の様に夏休みに里親里子交流会をしたいとの意見が出ました。例年の交流会は一泊の泊りで行っていましたが、宿泊先の予約やその他準備で半年以上前から計画する必要があり、時間的に無理があるので今年のところは日帰りでしようと決まりました。

今回は子どもも喜び、準備も簡単なバーベキューをすることにしました。場所は湖東ブロックでよく利用させて頂いている NPO 法人茗荷村の角屋を借りました。角屋は東近江市の大萩茗荷村にあり、標高 600mから 700mの鈴鹿の山々に囲まれた自然豊かな所です。初めて来られた方は途中の急な山道や標高 525mの角井峠を越える辺りで道に迷ったかと思われます。愛東マーガレットステーションより車で 20 分程山道を走ると角屋に到着します。

予定の８月 21 日（日）は曇って時折小雨の降るような天気でしたが、９時半前に現地に着いて準備を始めました。集合時間の 10 時には沢山の

参加者が集まりました。遠くは大津市里親会の木村さん親子が参加してくださいました。10 時半過ぎより炭で火をおこし始め、11 時半ごろには角屋の前庭のテント周辺には、ステーキ肉の焼ける美味しそうな匂いが漂い始めました。その頃には近くの渓流で水遊びをしていた子どもたちも帰ってきてバーベキューが始まりました。準備してもらったおにぎりと棒つきウインナーとチーズパンと一緒に焼いて食べました。食後はスイカと果物のカンズメでデザートを作って貰いました。子どもたちは食後又、川に入ったり、角屋の中の大広間で遊びました。大人たちはテントの中で子育てや里親会の話で盛り上がりました。予定の午後３時前には無事終わることができました。参加していただきありがとうございました。令和５年度はぜひ一泊で行いましょう。

**里親里子交流会に参加して（感想）**

蒲生地域里親会会員　黒岩智子

昨年８月 21 日（日）里親里子交流会バーベキューが行われました。前日の大雨でテントの屋根には水が溜まっており、みんなで下から突っついて落としたのが妙に楽しかったです。

参加者は総勢 30 数名くらいだったでしょうか。共同作業で準備を進め、わきあいあいとバーベキューが始まりました。子どもたちの一番人気はフランクフルト。焼きあがるそばから売れていきます。茗荷村の嶋田さんの三角塩むすびは、何個でも食べられるほどおいしかったです。焼いたマシュマロにも子どもたちは大喜び。圧巻はスイカ丸ごとフルーツポンチ。大きなスイカをくり抜いた中に、スイカや様々なフルーツが入っており、子どもたちの目が輝きました。

食後は川遊びを楽しんだり、里親同士、会話が弾んだり、それぞれ思い思いに過ごしました。

静かな山の中で過ごした楽しい夏の一日。きっと何かしら子どもたちの心に残ったことでしょう。色々と準備して下さった皆様、本当にありがとうございました。

## ◆ 法人化記念を兼ねて、「第４回里親知ってやフォーラム」を今年も実施！ ◆

**報告１「里親知ってやフォーラム」**

広報専門部会　黒川玉英

たいへんご報告が遅くなりました。滋賀県里親連合会は 2022 年 11 月、一般社団法人として新たなスタートを切りました。これに先立ち、10 月 16 日（日）ビバシティ彦根研修室にて、法人化記念を兼ねた「第４回里親知ってやフォーラム」を開催しました。

福岡市の児童相談所長として 18 年間児童相談所の改革に取り組んでこられ、現在、西日本こども研修センターあかしのセンター長である藤林武史さんに、「里親養育…フォスターケアはどこへ向かうのか～福岡市における 18 年間の道のりを踏まえて～」のタイトルでご講演をいただき、続くシンポジウムで、一般社団法人こどもみらい横浜の代表理事（横浜市里親会会長）新井淳子さん、弊会の外部理事をお引き受けいただいた日本女子大学の林浩康先生を交え、実践の紹介や様々な構造的問題を抱える社会的養護の現状についての報告をいただき、解決への糸口を探りました。そして滋賀県の社会的養護に長年関わっておられる森

本美絵先生（現在、自立援助ホーム四つ葉のクローバー施設長）の進行で、会場からの盛大な質問にも時間延長で答えていただきながら、それぞれ異なる立場で実践者・先駆者として活躍されている方々のお話を伺い、県、児童相談所、市、保健所、フォスタリング機関、支援機関、そして里親や未来の里親など関係者が、進むべき道のビジョンを共有できたことは、掛け値無しで得難い貴重な機会となりました（質疑応答やアンケートをいただ

いた追加の質問への回答は、追ってホームページに掲載させていただきます)。

ハイブリッド開催でしたが機器の不備があり、オンライン参加の方々へのフォローができないでしまいました。会場の皆さまにはご多用中、時間の延長でご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

次回の「第 5 回里親知ってやフォーラム」は、令和 5 年10月21日(土)大津市での開催となります。臨床心理士で子どもの虐待、トラウマの専門家である山梨県立大学の西澤哲先生が講師です。西澤先生は、今年 11 月 25～26 日、大津市と草津市で開催される日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）理事であり、第 29 回学術集会　滋賀大会の立役者と聞いています。福祉先進県とも称される滋賀県で令和 5 年、何かが動く予感がします。

（一般社団法人滋賀県里親連合会 Facebook より）

**報告２「フォスター写真展」**

広報専門部会　白坂充生

フォスター写真展では様々な家族のかたちが映し出されていました。人と人とがそうであるように、家族にもいろいろな個性があることを改めて感じさせられました。お客様は写真の前に立たれ、そこに映し出された方々の人生に思いをはせておられるようでした。写真展の会場にてご家族の似顔絵を描かせて頂けたことも大事な経験となりました。家族のかたちが様々なら、「幸せのかたち」もいろいろなのだと、写真が教えてくれました。

## ◆ピアカウンセリング事業の里親サロンを各２回、開催する◆

**湖東支部里親サロン**

蒲生地域里親会会長　　山添　潔

今年度湖東ブロックでは里親サロンを２回行いました。１回目は 11 月 12 日（土）に NPO 法人茗荷村さんと合同でサロンを行いました。場所は鈴鹿の山中の大萩茗荷村で紅葉の美しい所でした。茗荷村さんは大きな焚火をして熾火で焼き芋を焼かれましたので里親会は焼きそばとポップコーンとマシュマロを焼きました。支援機関の方も３名参加して頂き、一緒に焼きそばを焼きましたが 60 人以上の参加者があり天気も良かったので汗だくで焼きました。ポップコーンもマシュマロも子どもには好評で作るしりからなくなり晩秋の一日を楽しく過ごしました。

２回目は令和５年の３月５日（日）に五個荘の近江商人屋敷でひな人形見学をしました。当日は大人子ども支援機関合わせて 43 人の参加者がありましたので二班に分かれて二カ所の見学をしました。その後、近江商人屋敷の町中を流れる水路に泳いでいる大きな錦鯉に餌の食パンをやりました。子ども達には一番人気がありました。昼には天理教湖東大教会の食堂をお借りして皆で弁当やお菓子を食べました。食事のあと大人は少しだけ交流会をし、子どもは教会内の広い庭でボール投やサッカーそして鬼ごっこと自分たちのルールで賑やかに遊んでいました。この様な里親サロンができるのも茗荷村や天理教湖東大教会の皆さんの協力のお陰です。

残念なことは参加者の顔ぶれがあまり変わらず新しい人の参加が少ないことです。どうか皆さん気軽に参加して下さい。お待ちしています。

**湖西支部里親サロン**

（一社）滋賀県里親連合会理事　田辺幸司

湖西支部ではサロンを２回開催しました。１回目は９月３日（土）膳所の平野コミュニティセンターに於いて、「里親のリスクマネジメントについて」と題して、里親活動のリスクマネジメント（危機管理）の大切さを、（社福）小鳩会理事長の山本朝美先生、同小鳩乳児院里親支援専門相談員

の広瀬直子先生を講師に迎え開催致しました。日々の里親活動の中での注意点など直接関わる問題点など聞くことが出来、またオンラインでも参加者からの質問もあり、最後まで熱心に受講されました。

２回目は、10 月 22 日（土）、滋賀県立びわ湖こどもの国に於いて、「オレンジリボンたすきリレーと、大津市・高島市里親会員の交流会」と称して、たすきリレーのゴール地である「こどもの国」（高島市）で開催。午前中はこどもたちと園内で親子の時間を楽しみ、昼食はバーベキューで里親同士の親睦を深め、午後は会場内の子どもたちに「輪投げとストラックアウト」のブースを提供し、たすきリレーのゴールを参加者と共に迎えました。

因みにたすきリレーとは、こども虐待防止の象徴である「オレンジリボン」をたすきに仕立て、これを身に着けて走り、リレーすることで、皆の心を一つにすれば大きな力になることを証明し、「子ども虐待防止」を市民の皆様へ呼びかけその実現を目指し、2007 年から始まった啓発活動です。

**湖南支部里親サロン**

（一社）滋賀県里親連合会副理事長　一宮祥子

令和５年１月２２日、湖南支部１回目のサロンを社会福祉法人守山学園で実施しました。施設長谷村太様他職員の方の説明を受け、新装となった園の内部の見学をさせていただきました。各部屋、各棟とも木の香りも爽やかで、採光の取り工夫も設計されて、児童や職員が健全に生活できるように施工されていました。資金はクラウドファンディングにて募られたとのことでした。守山学園は永年ホームステイとして多くの児童を里親に預けて下さっていたので、今後ともに子どもたちのため歩みたいと希望します。

また２月 26 日には、２回目のサロンを甲賀匠の里で実施しました。今後、市町から委託を受けるショートステイ事業の説明をフォスタリング機関のある小鳩の山本理事長様他の方から、事業手続きの説明や留意点、家庭と里親間の繋がり、相互トラブル防止等の詳しい説明を受けました。今後市町との契約に備え参考となりました。里親も受け皿となるため行政や親より信頼を得られるよう努力したいと思っています。サロンの後、参加者の皆さんに無想庵にてお茶を頂いてもらいました。

**湖北支部里親サロン**

（一社）滋賀県里親連合会理事　岸田正嗣

令和４年 12 月 11 日、今年度１回目の交流会として湖北ブロックでは初の試みとなるクリスマスケーキを食べる会を開催しました。クリスマスの２週間前という事でクリスマスらしいケーキが手に入るか心配しましたが、サンタやお菓子の家といった、装飾に子ども達は大はしゃぎ。当日は参加人数が少なかったおかげでホールケーキ１人半分の様な状況も相まって、参加した子ども３人はケーキカットの際に「このサンタさんは僕の」と楽しそうに切り分けの手伝？をしたり、備え付けの玩具で遊んだりする中でも子どもに大人気だったのが自動掃除機ルンバで、動き回る後を追いかけたり、行く手を遮ろうとして避けられたりと、すっかりお気に入りの様子です。

帰りの車内でも「家にはルンバ君買わないの？」と言い出す程、クリスマスケーキを食べる会よりもルンバと遊ぶ会に名目が変わった様な楽しい一時を過ごす事が出来ました。

そして３月 12 日、２回目の交流会として湖北ブロックでは恒例の鍋パーティーを大人 10 名、子ども７名と、食後からは小鳩からも２名の参加を頂き開催しました。参加人数はコロナ前と比べると減少しましたが、鶏の醤油鍋、豆乳鍋、キムチ鍋と３種類の味を用意し、醤油鍋にはラーメンを最初から入れたところ、子ども達に大人気であっという間に完食してしまいました。大人が談笑をしながら鍋に舌鼓をうつ間もほぼ、初対面の小学生迄の子ども達は自宅とは違う広い畳敷きの部屋で追いかけっこや沢山の座布団を引っ張り出して滑り台やマットレスの様にし、仲良く過ごしていました。中学より上の女の子は出会えなかったブランクを感じさせないような仲良さで催しが終了した後、２人だけの女子会を行っていたようです。

来年度以降も同じような鍋パーティーを開催し大所帯で鍋に舌鼓をうちながら、近況報告や子育てに対する悩み、不安の相談、情報の共有等を行いたいと思いますので是非、来年の鍋パーティーには皆様奮ってご参加をお待ちしております。

## 全国里親会に参加して

（一社）滋賀県里親連合会監事 井村 悌規・栄美子

2022 年度全国里親大会が 10 月に山梨県で開催され、講演テーマや講師の先生方が大変魅力的であり、遠方ではありましたが夫婦で参加することにしました。

２日間を通して感じたことは、①社会的養護の子どもたちが家庭的な環境で養育されることの大切さ②その子どもの最善を聴き（アドボカシー）、確認しながらその子どもが自己実現し続けること　③一緒に生きてくれる人（パーマネンシー）としての里親の位置づけが求められていること④パーマネンシーを支えていくためには、チーム養育が必要ということです。

特に子どもの声に耳を傾け、思いや意見を表明できるよう支えていく「アドボカシー」やずっと一緒に生きていく家族がいる永続的な養育環境をさす「パーマネンシー」という概念の大切さを講義の中で何度も耳にしました。

里親制度が子どものための制度であることを考慮すると当然のことですが、そこを保証していくためには、里親自身の学びと気づきが必要だと思います。わが子同然という言葉はわが子ではないことが根底にあります。我が子ではないという事実がパーマネンシーを揺るがすことのない様、アドボカシーを妨げることがない様、子どもをめぐる様々な課題や問題についてさらに理解を深め、子どもとのよりよい関係性を築いていきたいと改めて考えさせられました。

新型コロナ禍下での子どもの環境についての講義では、様々な感染対策が子どもの育つ環境の低下を急加速させたことについて、子どもの成長発達と家庭、社会との関係の上からでもよくない循環に陥ってしまったことを図示されました。中でも子どもの自尊感を維持するには常に他者とのかかわりを必要とのまとめと、コロナ禍の３年間を過ごした子どもがどのような大人になり、どのような時代をつくっていくことになるのかという課題が提示されたことに子どもにとっての３年間の大きさ、そしてそれは、低年齢であればあるほど大きな影響を与えたものであることを考えさせられました。

関東での開催であったのでオンライン、オンデマンドでの参加も考えましたが、対面での講義は講師の先生方の雰囲気や気迫が感じられよい学びになったと思います。2023 年度は、神戸での開催とのこと、次回もぜひ参加したいと思います。

## 広報専門部会Ｒ５年度「子供の未来応援基金」事業計画について

**「子育てを社会が支える未来～里親活用プロジェクト」**　（一社）滋賀県里親連合会理事　黒川 玉英

**【特徴】** 助成期間：単年／金額：300 万円／特徴：団体の職員への賃金支払いも可となった。
子どもの貧困対策を進めるための官民連携プロジェクトの１つとして 2015 年創設
団体の通常の事業とは別会計・別通帳にて管理

**【四つの柱】**

**１．子どもの経験値アップ事業**

①夏休みの旅行：要支援家庭の子ども５～７・７～ 10 名程度。ショートステイや子ども食堂などで繋がったひとり親家庭等で生活する子どもで、夏休みに旅行などに連れて行ってもらえない子どもを、支援中の里親さんが、USJ（日帰り）や離島（２泊３日）へ連れて行く企画。対象の子どもの交通費・宿泊費・食費などを支援
⇒該当の子どもがいて、企画に参加を希望する里親さんは４月中にご連絡下さい。
（措置児童や実子は対象外、領収書の形式や注意点など事前に説明会を開く）

**２．養育力アップのための研修の開催**

①和歌山大学　米澤　好史　先生の愛着障害と発達障害の対応の違いなどについての二日間の研修
⇒講義＋事例検討（事前に希望される方の事例を講師に提出予定）

**３．子ども達を地域で支える里親を増やすための広報の実施**

①野洲のおっさんシリーズ第二弾「地域の子育てを支えるショートステイ里親」
②人形劇動画制作・配信
③SNS での情報発信（Facebook、Instagram など）
④案内チラシなど制作・配布

**４．里親支援・居場所事業支援（フォスターサポートハウス）**

①子ども食堂や学習支援、里親カフェなどの交流・居場所事業（連合会の通常の事業は対象外）などを行う里親会会員への支援　⇒物品や玩具などの提供（例：移動式倉庫、カプラ、プラレール、調理器具、託児代、講師謝礼など）
②ショートステイ・一時保護など受託里親への育児用品、衣類や玩具の提供・貸し出し、相談支援
（例：チャイルドシート、おんぶひも、バウンサー、練習用自転車、衣類、玩具、スポーツ用品、お風呂用玩具、ミルクなど授乳用品、おむつ、離乳食サンプルなど）

※問い合わせは担当　黒川までお気軽に。
（shengyuxi@icloud.com/090-4283-7998）

## フォスタリング機関こばと統括責任者（小嶋美恵子）から、今年度の事業報告（１月末現在）

滋賀県里親連合会の皆様におかれましては、日々、里親制度及び社会的養育の推進にご尽力いただき、またフォスタリング機関こばとの事業にご協力いただきありがとうございます。
里親家庭への支援につきましては他施設の里親支援担当職員と共同して支援に当たらせて頂きました。今後も里親の皆さんとともに、子どもを中心としたチーム養育が充実するよう努めてまいりたいと思っております。

| 事　業 | 内　容 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 里親制度普及促進・リクルート事業 | 広報啓発 | 京阪電車、近江鉄道車両側面広告／近江鉄道八日市駅、彦根駅看板設置／<br>JR 能登川駅構内看板設置／大型商業施設、イベントや情報誌での啓発活動 |
| | 事前相談 | 32 件（うち出張相談 13 件） |
| | 里親おしゃべり会<br>（湖南と湖西地域は 2 月に実施） | 湖北地域　10/23　7 名　1 里親家庭<br>湖東地域　10/30　2 名　2 里親家庭 |
| | 里親制度の出前講座 | 民生委員（多賀町、竜王町、近江八幡市）、市町職員等 |
| 里親研修・トレーニング事業 | 養育・養子縁組里親研修 | 前期：　5 ～ 6 月　21 家庭 38 名受講<br>後期：11 ～ 12 月　15 家庭 22 名受講 |
| | 里親更新研修 | 9/10（大津市）・9/15（近江八幡市）　37 家庭 54 名ハイブリッド型受講を導入 |
| | 里親スキルアップ研修 | 6 ～ 7 月に実施。3 家庭 6 名参加　（3 月にも実施）<br>子どもとの交流と座学。座学は養育里親コース、養子縁組コースから選択。 |
| | 委託里親研修 | 5 月「子どもたちに伝えたい身体・性のお話」<br>7 月「里親委託にかかる措置費の話」<br>8 月「自立をサポートする社会資源」<br>10 月「知っておきたい、発達障害」<br>1 月「e- ネット安心講座」<br>2 月「知っておきたい、トラウマ」　延べ 97 家庭参加、オンライン研修 |
| | グループワーク | ○養親さんのぐるーぷわーく<br>対象：養親縁組里親家庭、養子縁組を前提とする里親家庭<br>参加：7/2（5 家庭）7/10（4 家庭）9/25（6 家庭）11/12（4 家庭）11/27（3 家庭）<br>○グループワークホームステイ<br>対象：ホームステイ里親と施設職員／参加：4 家庭 4 施設<br>○ジョシ会<br>対象：思春期女児（小学 5 年生～高校生）／ 5/28（2 名）、9/25（2 名）、12/11（3 名）<br>対象：措置解除後の女児／ 10/2（2 名）2/7（2 名）<br>○スマイル・キッズクラブ<br>対象：小学生とその保護者／ 6/5（6 家庭）・11/23（5 家庭）・2/23（5 家庭） |
| 里親委託推進等事業 | 受け入れ意向調査<br>未委託里親家庭訪問 | 受入意向調査：送付 218 世帯、返信 191 世帯／未委託里親訪問：46 家庭<br>里親さんの情報を集約し児相、市町のショートステイ担当課に情報提供。 |
| | ホームステイ事業の調整 | 施設入所児 15 名を 14 家庭が受入れ（新規 2 名 2 家庭） |
| 里親訪問支援事業 | 委託里親家庭訪問 | 延べ 217 件 |
| | レスパイトケアの調整 | 22 件（利用里親 9 家庭、利用日数 45 日） |

## ◆ 里親会員からの投稿 ◆

**里親１年生**

草津市里親会　上新　寛・友美

里親登録を終え、わが家にすぐショートステイのお話が来ました。これまで親戚や友達の子を預かった事はありましたが、その難しさは痛感していました。これが日常化すると何でもないのですが、食べ物ひとつから、その子の好きな遊び・・・私たちも慣れていないので、普段よりエネルギーを使います。

初めての依頼は、保育園児（兄妹）1 泊 2 日のショートステイでした。事前に顔合わせをしていた事もあり、２人ともスムーズにわが家に馴染んでくれました。実年齢よりは身辺自立もしっかりとしており、驚かされました。お母さんを恋しがって泣くこともなく、お預かりする方にとっては頼もしい限りでした。しかしやはりわが家のリズムとは違うので、とても神経を使います。実子なら大丈夫と思える場面でも、お預かりするお子さんは過剰に心配したりもします。私たちは『長期養育』か『養子縁組』を希望して、里親登録をしました。その場合もほとんどが途中からの子育てになるので、最初は同じように戸惑うでしょう。ショートステイを通じて“人の子どもさんをお預かりする”難しさを十分に経験し、いつか依頼がくるその日まで、里親として日々成長していきたいと思います。

里親登録をしようと思った時から、実子にはゆっくり時間をかけて『里親になりたい』という思いを伝えました。家族が 1 人でも反対したら登録する事は諦めたのですが、同居の祖父母も含め私たちを後押ししてくれました。特に長女が『（里子としてウチに来る子も）みんなが幸せに仲良く暮らしていけたらいい』という言葉には親ながらに感動しました。自分には関係ないとは思わず、周りを思いやれる心優しい子に育ってくれて嬉しかったです。1 人でも多くの子ども達が、『生まれてきてよかった』と思えるような社会に…。里親制度は、その第 1 歩ではないかと思います。わが家も微力ながら、お力になれる日を楽しみに待っています。

**子ども食堂をはじめました！**

大津市里親会　池戸　剛・昭江

2021 年８月、小学１年生の女の子が亡くなるという悲しい事件が起こりました。当初、ジャングルジムからの転落により亡くなったと思われましたが、17 歳の兄による暴行死であったことが分かってきました。その後、児童養護施設で育った子であること、母親との同居後、母親の不在が多く、兄が妹の世話をしていたこと、母親の違法薬物所持なども分かってきました。私共のファミリーホームは、この公園やお宅から、わずか数百メートルのところにあり、うちの子どもたちが通う同じ小学校のお子さんであり、よく遊びに行く公園でした。「こんなに近くにいたのに、助けてあげられなかった」と夫婦で悔やみました。けれど、こちらがいくら助けたいと思っていても、その方との繋がりや開かれた居場所がなければ、助けを求めることはできないようにも感じました。そんなことを毎晩夫婦で話している中で地域おける子育て家庭のサポートとして、子ども食堂を開設しようという思いに至りました。

そして 2022 年５月に「子ども食堂わいがやキッチン」を開設しました。まず夏休みに小学生の学習支援「しゅくだいカフェ」を企画しました。夏休みとは言え、親御さんはお仕事があり、子どもたちだけで留守番をしている家庭もあります。また、親御さんは宿題を見たり、毎日三度の食事を準備することも、普段の子育てに加えて負担が大きいものです。子どもたちも、家では宿題が進まないということもよく聞きます。一年前のような悲しい事件を未然に防ぐためにも、７月 22 日～８月 26 日まで毎週火曜日、金曜日の 11 回「しゅくだいカフェ」を開催しました。

午前中の 2 時間、大人が付いて宿題をしてもらい、途中のブレイクタイムでは龍谷大学の学生さんが 10 分程度のゲームをしてくれました。帰りに市販のパンとおにぎりを持ち帰ってもらいました。また､「竹とうろう作り」や「餃子づくり体験」を行うなど、楽しみもつくりながら、子どもたちと賑やかに開催しました。ありがたいことに、この活動がだんだん口コミで拡がり、25 世帯、述べ 124 名の小学生が参加してくれました。スタッフには、地域住民の方々、民生委員さん、大学生さん７名、フォスタリング機関の方々、児童養護施設の職員さん、里子がお世話になっている塾講師さん、小学校の校長先生はじめ先生方など、述べ 122 名の方にボランティアでお手伝い頂きました。

10 月からは毎月第３水曜日に「子ども食堂」として本格スタートしました。夏休みのしゅくだいカフェに来てくれ、私たちと親しみのある子どもたちが、友達を連れて来てくれたり、そのお宅のママさんたちからママ友へと拡がっています。スタッフは夏にお手伝い頂いた方たちが、継続して支援くださり、ボランティアの輪も拡がっています。

２月には 59 世帯、82 名の子どもたちが参加してくれ、１分間バスケットボール、射的、わなげ、クイズをしたり、みんなで宿題をすることや、敷地内で鬼ごっこをすることも、子どもたちにとっては楽しいようです。大好評の唐揚げ弁当は 235 食提供しました。だんだんにご利用くださる家庭も増え、現在約 70 世帯のママさんたちが繋がってくださっています。活動を続ける中で、個人的なご相談も頂き、うちの子ども食堂をご利用になっているお宅のお子さんを定期的にショートステイでお預かりしています。里親が行う子ども食堂ならではの支援にも繋がっています。

また、あるお子さんの学習面でのご相談を頂き、毎週うちへ来て頂いて、学習支援を行っています。大勢の方が参画してくださっていることや地域の拠点となって、様々な人と人との繋がりを生んでいることが本当に嬉しいです。地域の拠り所を目指して、これからも活動を続けていきたいと思います。

# ◆武村さんへの追悼メッセージ◆

**謹んで哀悼の意を表します**

（一社）滋賀県里親連合会副理事長　一宮祥子

武村薫様のご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。肩にリュックサックを掛け、軽装で颯爽と会議に来られる姿を今も思い出します。

忘れも致しません、私の夫が 12 年前に他界いたしました折、奥様の和美様と里子の小学生の方を伴い会葬下さいました。和美様の優しい慰めの言葉に心慰されました。その奥様があっという間に黄昏に旅立たれ、悲しみの癒さないうちに、和美様の遺志を継ぎ、守山市里親会の役員、県の役員として活動を開始して下さり、FH の代表者としてもチームを率い指導者として活躍されました。県里親連合会の副会長を永年勤めて下さり、大会や会議等の閉会の言葉には適格な事例を引用されて会を結んでくださいました。常に冷静で穏やかな一言一言は胸を打つものでした。

事務局よりの武村様の訃報に接しました時は、まさか本当？信じられない心情でした。県の連絡事項を電話しましても時折繋がらなく「山に行ってました」と返信があることがあり山登りや歩き等を趣味とされて日数をかけて出向いておられる様子でした。そんなにお元気でご健康な方が、なぜ何故の思いしかありませんでした。県里親会も法人化へと組織変えし、一般社団法人里親連合会として発足するに当たり、永年の経験と実績も認められ顧問としての役職も決定しておりました。先走りそうになる会の重し役とし、今後も貴重なご意見を賜りたいと思っていました矢先のご逝去で役員一同残念でなりません。

結びになりますが、武村さんのご冥福をお祈りいたしますと共に末永く県里親会の隆盛、里親たちの真の幸福をお見守りくださいますことを哀心よりお願いをして、お別れの言葉とさせていただきます。和美様と共に。おやすらかに。

**守山市里親会の会長職、有難うございます**

守山市里親会会長代理　林とも

私が初めて武村さんとお出会いしたのは、10 年以上前の守山市里親会と守山学園の交流会でした。穏やかで、優しくて、いつもニコニコと私達と子ども達と接してくださいました。私はシングルでの養育里親登録です。登録後、すぐに 2 歳の女の子をお預かりする事になりました。保育士をしているのである程度の知識はありましたが、保育園で子ども達を保育していく事と、子育ては全く異なりました。不安と疲れでいっぱいの日々に武村さんはいつも話を聞いてくださり、時に指導してくださりました。「どうしたらいいか分からない」と泣いている私に「子どもが助けてくれるよ」となぐさめてくださった事が今でも忘れられません。たくさんの子ども達を愛し、そして愛された武村さん。そんな武村さんの想いを受け継いで、これからの守山市里親会を大切に守り続けたいと思います。

**元里親連合会副会長　武村薫さんを悼む**

（一社）滋賀県里親連合会事務局長　村田　潔

武村さんの訃報に触れた時、「逝ってしまったのは、なぜ私ではなく、武村さんか」と思ってしまいました。何故かというと、私は 2 年少し前に大病をして、今は何とか生かされていますが死んでもおかしくない状態でしたから…。

一人住まいの武村さんの死因は「自宅のトイレから出た後の急性心筋梗塞」と聞いています。もし奥さんが生きておられたら発見も早く、助かったかもしれません。

お酒が好きな武村さんとは、会合の後「おやじ会」と称して一緒によく飲みに行きました。二人ともアウトドア派で酔いが回ると共通の趣味、スキー談義となります。そして或る時、亡くなった奥さんの話になりました。奥さんとは高校時代の同級生で、その仲間たちと蔵王へスキーに行った時に奥さんが骨折をしてしまい、地元の病院に入院された時の話です。その折に、武村さんが看病され、それが縁で結婚されたと聞いています。結婚されてからも奥さん想いで、家庭を愛した方でした。奥さんが長く闘病生活をされていた折も丁寧に介護をし、亡くなられてからは奥さんの意思を継いで、ファミリーホームを開設されました。

そして今、天国で再会し、現世と同様に仲良くやっておられることでしょう。今後は、法人化した里親会を、天国から一緒に見守っていただけることを願っています。

## 事務局だより

新型コロナウイルスが日本に上陸して３年が経ちました。この間、マスクを始め様々なところで行動規制が強いられ、里親会においても対面での活動がままならず、中止またはオンライン開催と歯がゆい思いをしてきました。しかし、ようやく今年度より徐々に活動が戻ってきており対面またはハイブリッド（対面 ＋ オンライン）での開催ができるようになりました。次の表は今年度、行った主な事業です。

| 期　　日 | 事業（行事） | 場　　所 | 対　　象 |
|---|---|---|---|
| ４月 15 日（金） | しが里親だより№92 発行 | 里親連合会事務所（編集委員） | 全会員・児童委員等 |
| ６月 19 日（日） | 近畿地区里親研修会 | 京都市生涯学習センター（京都アスニー） | 近畿地区の里親会員等 |
| ７月　１日（金） | 理事・事務局長会議 | 大津高島子ども家庭相談センター | 地域里親会長・事務局長 |
| ７月　９日（土） | 滋賀県里親連合会総会 | 近江八幡市総合福祉センターひまわり館 | 全会員等 |
| ８月 21 日（日） | 里親里子交流会 | 茗荷村（旧大萩集落）（湖東支部担当） | 全会員と子ども等 |
| 10 月８・９日 | 全国里親大会 | 山梨県甲府市（山梨学院大学） | 全国の里親会員等 |
| 10 月 16 日（日） | 里親知ってやフォーラム | ビバシティ彦根（湖北支部・広報専門部会） | 里親に関心のある方 |
| ９月～３月 | 里親サロン（１・２回） | 各支部ごとに開催（再委託） | 支部の里親 |
| ３月 19 日（日） | 里親ステップアップ研修 | キラリエ草津 | 全会員等 |
| ４月　２日（日） | 里子交流会（予定） | 栗東ボーリングジム（里子等自立支援専門部会） | 養子・里子等・支援者 |

そして巻頭でも代表理事が述べているように、里親連合会は、里親の相互交流だけを目的とする私的な団体ではなく、子どもの最善の利益を求めて、養育者としての技術向上を図り、子どもの権利を擁護し、そして里親制度の普及啓発などを行う公的な団体であることを会員の皆さんと一緒に、昨年の総会において再確認し、認証、登記などの手続きを得て、任意団体である里親連合会を令和４年 11 月 21 日付で、やっと法人化することができました。

また昨年度までの２年間は、コロナ下、優良里親さん等に対する表彰ができていませんでしたが、今年度、やっと全国里親会への推薦と滋賀県里親会会長表彰の実施を行うことができました。改めて紹介いたしますと、全国里親会会長表彰の受賞者は、一宮祥子様・楠亀典子様・嶋田浩子様・巽輝生様・巽美津栄様で、滋賀県里親会会長表彰の受賞者は、奥山傳一郎様・奥山ルジミラマリ様・林とも様でした。

（事務局　村田 潔）

## 編集後記

里親としての経験の中で、里子から教えられたことがたくさんありました。「自分の生活の中の何気ない風景を、意識して大切にしよう」と思うこともその一つです。

施設から週末だけ我が家に来ていた里子君が、専門学校卒業と施設退所を目前にしていた頃、施設の彼の担当職員さんから聴いた話です。彼は退所後に「実親の住む家に自分も住んで、夜遅く帰って来る親に『おかえり』と言う」ことを、してみたいと思っていたらしいです。

里子君の私的な環境を語ることは控えます。彼は「おかえり」という言葉で親を労おうとしたのかも知れません。でもその時私は、彼は単に「『おかえり』の声がある家庭風景」を体感してみたいと、ずっと、ずっと、思っていたのではないかと感じて、却って胸が詰まってしまいました。

考えれば、そういった何気ない日常生活の穏やかな風景こそが、人生の幸せの一齣です。彼にとっては得難い風景でしたが、難なく手に入れている者は大抵その価値に気付きません。彼だからこそ、その価値を知っていて、私に気付かせてくれました。

あれから私は「おかえり」「ただいま」「おやすみ」といった言葉を、怠けずに家族に言おうと心掛けています。そういう言葉は日常生活を美味しくするスパイスだと分かりましたから。相手からの反応が、あっても無くても良いのです。言葉を掛ける相手が居ることが幸せなのだ、とも知ったからです。そして時々、あの里子君を思い出しています。

（編集委員　吉田ますみ）

### 子どもを虐待から守ろう

滋賀県が実施している「オレンジリボンキャンペーン」を、（一社）滋賀県里親連合会は応援しています。また、この広報誌は、滋賀県からの補助金を活用し、作成しています。